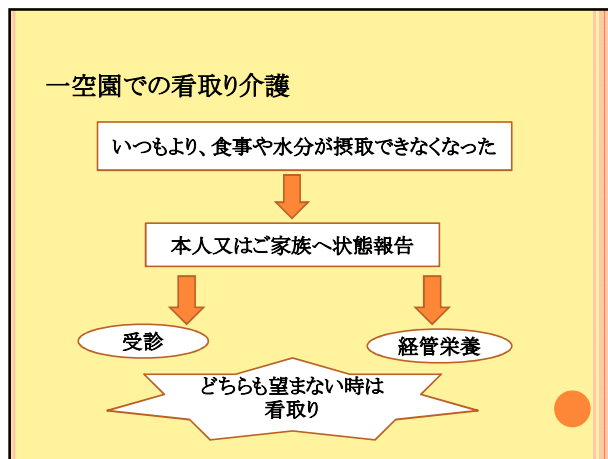


看取り介護期における皮下輸液の導入

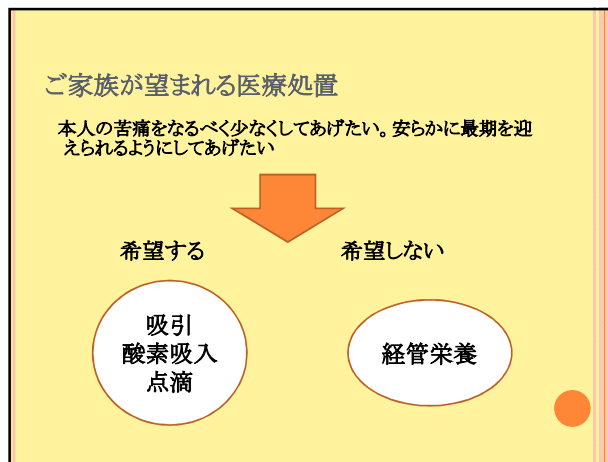
社会福祉法人 八生会 介護福祉老人施設 一空園 医務課



できる医療処置には限りがある！！

<一空園でできる医療処置>

- ①吸引(主に口腔内)
痰や唾液を自分で出せない場合に実施
- ②酸素吸入
呼吸困難時に実施
(在宅酸素の器械を借りて実施)
- ③経管栄養
食べ物が口から飲み込めなくなった場合に実施
- ④静脈からの点滴
脱水症状になる恐れがある場合に実施



点滴ができるかは血管次第！！

高齢者の血管	成人男性の血管
	
血管が浮き出てこない	血管が浮き出ている

一度は選んだ看取りだけど・・・ご家族の葛藤

何か他にできることはないか？

看取りへ今からでも連れて行く方がよいのか？

皮下輸液の導入決定！！

このままただただ見捨てることにならないだろうか？

高齢者にとっても苦痛がなく、ご家族にも「できるかぎりの治療をした」と感じて頂けるケアが必要

皮下輸液とは？

1970年代まで術後や小児の輸液において、大腿等の皮下に太い金属針を刺して、短時間に多量の輸液を行っていた(大量皮下注射)が、末梢静脈や中心静脈からの輸液が普及し、過去の治療法となっていた。



1990年代になって、在宅治療や緩和治療の場において、簡便性・安全性・負担の軽減などから、再度見直された。諸外国では、高齢者の通常の治療法として、認められており、日本でも近年、広がりを見せている。

皮下輸液は本当にいいの？

利点

- **容易**
(留置が簡単、苦痛が少ない)
⇒血液が逆流しないため、血液凝固による点滴の詰まりもない。開始や中断が容易に可能。
⇒継続使用が可能であるため、差し替えが少ない
- **四肢の拘束は不要**
⇒腹部に刺すことが多いので、服で隠すと気にならない。
- **輸液による循環体液量増加による負担が少ない**
⇒皮下に一旦水分が蓄積され、必要に応じて吸収される

欠点

- **針を刺した部分の痛み、発赤、硬結、出血、感染がまれに見られる**
⇒刺す部位を変えれば解決
- **輸液のスピードがゆっくりで不安定**
⇒体位により変化
- **針を刺した部分に浮腫が起きる**
⇒ゆっくり滴下すれば、ほとんど気にならないし、しばらく経てば吸収する
- **輸液製剤に制限がある**
⇒保険上は認められていない(生理食塩水のみ可)
医師と相談し、患者・家族への説明・承認が必要

今年度の皮下輸液実施者

平成23年4月～平成24年3月までの看取り介護実施総数: 12名
そのうち、点滴希望者は5名(うち1名は実施前に永眠)

<皮下輸液実施者内訳>

	事例 A	事例 B	事例 C	事例 D
看取り期間	5日間	12日間	27日間	11日間
血管(静脈)からの点滴実施	不可能	1回	8回	不可能
皮下輸液実施	3回	7回	3回 <td>5回</td>	5回

皮下輸液の実際(使用する物品)



皮下輸液の実際(穿刺)

穿刺前



穿刺後



皮下点滴の実際(確認と固定)

皮下へ穿刺



固定



皮下輸液の実際(終了時)

終了時



完全吸収



皮下輸液実施2例目

皮下輸液1回目



皮下輸液2回目(1回目から約1週間後の実施)



皮下輸液実施事例2例目終了後の穿刺部

終了1時間後



終了2時間後



皮下輸液を実施してみた...

- 高齢者が苦痛を感じている様子は見受けられなかった。
⇒前後のバイタルサインに大きな変動なく、表情も穏やかだった。
- 永眠されるまでの期間が少し長くなった。
⇒ご家族が寄り添いながら、大切な方の死を受け入れる準備期間を持つことができました。
- ご家族の満足度に繋げることができた。
⇒「出来る限りの治療はした。自分たちがやれることはやった。精一杯のことができた」という思いを感じて頂く手助けができた。
- 看護師自身の気持ちの変化
⇒正直、誰もやったことがなく、不安でいっぱいだったが、上記のような効果を感じ取ることができたので、「やってよかった」と次へ繋がる気持ちを持つことができた。

終わりに...

- 終末期において、どの程度の医療処置が必要なかは人それぞれ意見の分かれるところだが、「最期をやすらかに迎えたい」という思いは、誰もが同じであると思う。
- その中で、「穏やかに最期の日々を家族とともに過ごす」一つの手段として、皮下輸液を活用していくことは決して悪いことではないと思う。
- 「大切な人の最期を看取る」までの過程には、様々な葛藤があり、一つ一つを受け入れて、納得した上でないと、後悔のない看取りはできない。
- 最期を迎えられる入所者、残されるご家族の思いを受け止め、少しでも支えとなれるよう、今後も関わりを続けていきたい。

引用参考文献

- 1) 木下朋雄他:押さえておきたい!在宅皮下輸液のポイント, コミュニティケア, 6月号, P12 - 31, 2011
- 2) 医療法人喬成会 花川病院:持続皮下点滴の使用経験 医療療養病棟における終末期の持続皮下点滴の実態を調査して, インターネットより抜粋
- 3) 特別養護老人ホーム-空園:看取り介護指針~安らかな終末を迎えるために~